

2019年5月26日メッセージ

聖書箇所: II テモテ 3 章

主題: イエスの励まし (幸せの秘訣)

先々週、イスラエルからの講師ピーター・ツカヒラがやってきました。

その講義に参加したある方がこう言いました。「聖書は世の終わりがやってくる、そして、社会はどんどん反キリスト的に、すなわち悪くなっていくと教えているのにピーターさんは政治、経済、教育その他さまざまな分野に私たちは進んでゆき、福音を宣べ伝えるべきだ、という。これは世の終わりになって世界は悪くなるのに、それを良くしようというわけで聖書と逆行していませんか。」

これは一理ある質問です。

世の終わりに近づいているのにどうしてわたしたちがこの様々な分野で活躍する意味があるのでしょうか。この世はどうせすたれていくんだから、好きなように生きれば良いんじゃないですか。

まさにその通り、素晴らしい意見です。

この世界は罪と悲しみに満ち、くそみたいなもんです。どうせいつかは終わるものならば、いっそのこと自分たちの手で終わらせることができたら、最高です！

こんな人間もいるかもしれません。

世界の権力を手中にし、全世界の核兵器を一度に爆破させればまさに、自分で自分に決着をつけることができるのです。死にはしますが、もしかしたら気分爽快かもしれません。

しかし、この言葉は矛盾をはらんでいます。

人間の一生に当てはめてみましょう。

人は死にます。つまり滅びに向かっています。

だからといって、やけになり、仕事をやめ、放蕩に走り、家族をかえりみず、健康を放棄し、死んでしまおうと思うことはありません。

理屈としてはあっているかもしれませんが、何かおかしいとわたしたちはかんじているのです。

くそみたいな人生にも、生きる価値があると思うところが、なぜかあるのです。

私たちは世界としても、個人としても、滅び、すなわち死に向かいつつあるのです。だったら早く死のうが、遅く死のうが関係ない、苦しい人生をキャンセルして早く死んだ方が良く考えてもおかしくはないのです。

しかし、それにもかかわらず、幸福を、真理を、希望をわたしたちは求めます。なぜでしょう。

何ともはや、不思議な話です。

理由は簡単です。わたしたちはそのように考えるように作られたからなのです。

この世の現実を見ながらもそこには存在しない理想を求める。

そこに人間の不思議な性質があるのです。罪の自覚と死、しかしそれを越えたところの理想です。

動物はそのようなことは一切考えていないように見えます。実際のところ彼らの生活には死への不安がなさそうです。おそらく何か身体が動きにくいなあ、と思いながら死んでいきます。

また彼らには良心の痛みもなさそうです。強ければ食べる。弱ければ食べられる。それだけです。人間のようないじめもなさそうです。弱い仲間をほっておく傾向はありますが、すぐれた仲間をねたむ、ということは皆無だと思われま

さて今日のタイトルは「イエスの励まし」私たちの幸福の秘訣、これがサブタイトルです。忘れないうちに結論を言っておきます。

「幸せになりたければ損をしときなさい」これが結論です。

「なにそれー！」と思う人、少し考えてみてください。

みんな何で怒るのですか。自分の尊厳をふみにじられたからです。

何で悲しむんですか、ひとから意地悪されたからです。何で悔しいんですか。競争に負けたからです。何でむなしいんですか。正当に評価されない、または自分で自分を評価できないからです。

しかし、俺なんかせいぜいこんなもんだ。私は損したけどその分誰か得した。おまわりさんに罰金を払わされたけど、政府に献金した。こんな風に思っておけば幸せは崩れません。

ただし、これだけで終わると禅問答みたいな話になって上から目線のお説教になってしまうので理由をお話しします。それがⅡテモテの3章です。

ここは使徒パウロから、同労者テモテへの私信です。プライベートな手紙です。パウロはまさかこの手紙が全世界で後に読まれるようになって書いて書いたかどうか、いまわかりませんが、現実的にはそうなっています。

16節「聖書はすべて神の靈感による・・・」のくだりは十全逐語靈感という神学のもとになる言葉ですし、「終わりの日には困難な時代が来る・・・」なども終末論的雰囲気漂います。

しかしながら、本来これはパウロのテモテへのプライベートレターであったのです！

「あなたは終わりの日のことを承知しておきなさい」「あなたは私によくもついてきました」「あなたは学んで確信したところにとどまりなさい」

相手がテモテだからこそパウロはこのような手紙を書いたのであって他の人にはこういう書き方はしません。

パウロはテモテに秘密を明かし、テモテを評価し、テモテを心配しています。

パウロは彼に結局こう言っているのと同じではないでしょうか。

あなたは福音のために苦勞します、私と同じように。あなたは認められています、わたしの目を通して。あなたは自信を持ちなさい、聖書のみことばによって。

さらに何よりも肝心なことはこのテモテの存在がパウロにとってはおそらく最高のなぐさめ、励ましになっていたということです。

いや、パウロは純粹にキリストから励まされていたんでしょ、テモテの存在は関係ありませんよ、という方もいるでしょう。

確かにそうです。しかしテモテが「自分はパウロの励ましになっている」と自覚したらどうでしょう。勝手ながら、これこそ彼の存在意義、強固なアイデンティティー、自信につながったともいえるのではないのでしょうか。

つまり、パウロが通った困難、すなわち福音のための苦しみはそのままテモテに引き継がれ、テモテも苦勞する。

しかし、その苦しみや損はパウロの励ましになる。パウロの励ましになっているテモテは大きな自信を得る。

これぞまさに幸せの経済成長と言ってもいいのではないのでしょうか。我々の幸せ株価は増大し、私達の幸せ国民総生産はマックスに達していくのであります。

さて、私たちはどうでしょうか。

イエス様はわたしたちのために十字架にかかり、わたしたちの罪を背負い、その問題=さばきを解決してくださった。

そして今わたしたちがこの地上にあって生きているのは、完全に罪赦され、イエスと同じように完璧な人として認められたうえでの生活です。

ただ、この肉体にある間は弱さと、限界にうめき、判断をあやまり、失敗し、だまされ、損をし、情けない人生と背中合わせです。何ともしようがありません。

しかし、そんなあなたが主イエスのはげみ、主イエスを喜ばせているのです。信じられますか。まさにインクレディブル・ハルクです。

パウロがテモテに書き送ったように今日も主イエスはその秘密をあなたに話し、あなたの人生を喜び、苦勞を心配し、共に歩んでくださっています。

この主イエスの愛につながるとすれば、あなたの損害はもはや損害ではありません。主イエスを喜ばせる最高のドラマです。

貴方の情けないと思っていたかもしれない自分の人生、今日からもう恥じる必要は全くありません。

主イエスも十字架で恥を負われました。しかし、よみがえり、その恥を払しょくされた。私達も同じです！

感謝しましょう。